



学校教育目標

「強く 正しく 朗らかに」を教育目標に「豊かな心を持ち 自ら学び 考えたくましく生きる子どもを育てる」を重点目標に掲げる。

めざす子ども像

豊かな心を持つ
周囲の人・もの・ことに積極的に関わりながら、互いに支え合い、学び合って、獲得した力を学習や生活に生かしていく子ども

自ら学ぶ
学びへの関心・意欲を強くもち、自分から学びの対象に粘り強く関わる子ども

自ら考える
自分の思いや願いを大切にし、進んで自分を振り返り、高まりを目指して創造的に学ぼうとする子ども

カリキュラム・マネジメントでめざす方向

学校行事と教科学習の関連・充実を図るため、全教職員で単元配列表を見直し、重点化を図る教材を確認するカリキュラム・マネジメントに取り組む。特に、令和6年度は、すべての教室・教科・学校生活において、「主体的対話的で深い学び」を実現することを意識し、指導法の統一と効果検証を年3回（6月・11月・2月）を行い、柔軟に修正していく。

学習指導の方法として、「めあて」を具体的に示すこと・教師と児童がめあてを共有することを大切にし、子どもが自力解決する場と時間を保証する。また、めあてにそった学習の振り返りを行うことで、学びを実感できるようにする。教師は、多様な子どもの成長、学びを励まし、賞賛し、個々の学びを価値あるものとしてフィードバックする。

育てたい資質・能力 ~主体的・対話的で深い学びをめざして~

求め続ける

問題を把握する力 事象をよく見つめ、探求する価値のある問題を見出す
解決の構想をする力 解決の方法や手順を考えながら、適切な計画をたてる

創り上げる

分析的に思考し判断する力 事実や根拠をもとに多角的に思考し、判断する
学びを振り返る力 問題や方法、結果を吟味し、自身が獲得した学びを実感する

共に生きる

共感する力 自己や他者の考えや行動を比較し、自分らしさや他者の様々な考えや行動を認め、受け止める

学びや生活に生かす力 学んだことを学習や生活に生かそうとする

子どもの実態(学力・生活指導等)・学校の喫緊の課題

- 令和6年度全国学力・学習状況調査の正答率では国語、算数両方で大阪市平均を下回った。国語では「読む力」・算数では「数と計算」の分野が大阪市平均を大きく下回っていた。
- 児童は基礎的な学力はついているが、自主的に学習する習慣が高学年になるほど少ない傾向が学校アンケートより見られる。家庭での学習が定着しないことが課題である。
- 学校アンケートより、学校は楽しいと肯定的に答える児童は学年にはらつきはあるが85%程度となっている。
- 優しい気質の児童が多いがリーダーシップをとれる児童が少なく、自ら創意工夫をして行動することができない児童が多い。
- 地域や保護者の学校に対する願いや期待が大きいことから、継続して連携の強化・確立を進めていく必要がある。
- 規範意識を高めるため、教員が組織的に指導していくことが必要である。

信頼される学校づくり

開かれた学校へ

授業公開、学校評価の公開、ゲストティーチャー・図書館ボランティア等外部人材の活用、学校だより・学校ホームページによる発信

働き方改革と児童と向き合う時間の確保

ICTの活用による校務の効率化と、デジタル教材や学習支援ツールを活用した授業の実践

学校・家庭・地域との連携

地域社会に目を向け、人・もの・ことと積極的に関わり、他者とともに活動し、学びあい支え合う体験の充実をめざし、地域の学習資源の教材化と指導の充実を図る。